

《2012年度ICD日本部会・年末集会特別企画》

幻の豎笛 オークラウロとピアノのコンサート

尺八・オークラウロ奏者

小 湊 昭 尚



●抄 録●

2012年度ICD日本部会の冬期学会と年末集会が12月8日（土）に帝国ホテル『光の間』において初めて合同開催された。

年末集会のアトラクションは、尺八奏者 小湊 昭尚氏、ピアニスト保坂修平氏による『幻の豎笛 オークラウロとピアノのコンサート』だった。

キーワード：オークラウロ、幻、豎笛、尺八

I. はじめに

オークラウロは、ホテルオークラ創業者の大倉財閥二代目大倉喜七郎男爵（1882～1963）が、大正末から昭和初期にかけ考案・制作した楽器です。名称は大倉の苗字「オークラ」と、古代ギリシアの豎笛楽器「アウロス」から伊庭 孝が合わせて命名した、楽器分類上、金属製の多穴尺八の一種とされています。大正・昭和初期に日本では、盛んに演奏され広まりつつありましたが、やがて戦争を迎え、世界に広まることはありませんでした。さらに戦後は財閥解体など廃れてしまったため、その生産と音楽活動が途絶え、今や邦楽史の教科書に名前が記されるだけの幻の楽器とされています。

II. 生い立ちから幻へ

喜七郎は英国留学で欧州の貴族文化に触れ、文化活動の支援とりわけオーケストラや作曲コンクールの後援などを通じて、我が国の西洋音楽普及に貢献していました。その一方で1922年（大正11年）ごろから、尺八の音色を好み自ら吹奏をしていましたが、当時使われていた楽器の簡素な造りに飽き足らず、尺八を世界

の楽器と合奏できるように、西洋音楽の12音律を正確なクロマチックスケールで演奏できるように改良を志していました。

尺八は、古来より楽器自体の改良はなく伝統を守っているのに対し、フルートはキーシステムを採用し指使いが容易になるよう改良されています。フルートは本体を横向きに構えますが、オークラウロは縦向きに構える頭部管豎笛です。主な改良としては、音域と音量の拡張のために指孔を増やし、かつ広げることで、フルートに用いられていた連結して穴をふさぐ装置であるベーム式のキーシステムが取り入れられ、素材も竹製から金属製とし、フルートの吹き込み口が管の側面にあるのに対し、頭部管に尺八の歌口を持つため、外具は縦にしたフルートを想わせます。

試作の段階で、英国ロンドンのフルート楽器メーカーであるルーダン・カルテ社に試作を依頼し、試行錯誤を繰り返すこと十数年、竹の尺八に金属製のキーを加えているものから徐々に木製から金属製になりました。1935年（昭和10年）最初のオークラウロが発表され、標準のソプラノのほか、ピッコロ、ソプラニーノ、アルト、バスソの5種が制作されました。（図1）

音色は尺八の湿り気とフルートの軽快感が生む哀愁

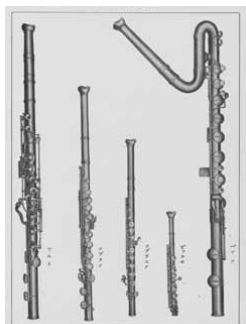


図1 5種のオークラウロ
fig. 1 Five kind of Okraulo



図2 オークラウロ演奏者
fig. 2 Okraulo player, Mr Kominato

に満ちた懐かしい音色、尺八のような深い音からフルートのような高い音の二つの楽器を融合させた豎笛です。そのためフルートよりも野太い音（フルート管径19mm、オークラウロ21mm）と、息によるビブラートでなく首振りによるユリが聴けます。この楽器はフルートのキー操作では難しいポルタメントも尺八のメリ・カリの技法で簡単にできるのが特徴です。

時代が大東亜戦争へと歩みを早める中、喜七郎はその後にも改良を続ける一方で、教則本を作り銀座には、オークラウロ協会が設けられ、『オークラウロ教則本』（古賀一聴著、1936）の刊行や楽団による定期演奏会も行われました。オークラリスト養成所では練習生を集め、若手尺八演奏者が中心となってその育成に努めました。喜七郎の演奏活動は終戦までの10年間を駆け抜けました。

また、作曲コンクールも実施され入賞者の中にはのちにNHK交響楽団の指揮者となる山田一雄、演奏会招待客には日本画家の横山大観や小説家の島崎藤村らもいたようです。

奏者としては、大倉聴松（喜七郎）、荒木和聴（4代目荒木古童）、福田真聴（福田蘭童）、角野錦聴（角野錦生）、岸 星聴（岸 星甫）、菊池淡聴（菊地淡水）などでした。

大東亜戦争がはじまってからも喜七郎の活動は続きましたが、戦後財閥解体により大倉家の支援が難しくなると、演奏会の激減、楽器が金属製で特注であるために高価であったことなどを理由に楽器も造られなくなり、オークラウロの吹奏の機会はたちまち失われ、今ではその存在が一部に語り継がれるだけのまさに幻の楽器となってしまったのです。

Ⅲ. I.C.D年末集会アトラクション

今回、戦後間もなくオークラウロの吹奏は途絶えていましたが、近年70年ぶりに蘇ったオークラウロを、ICD日本部会年末集会のアトラクションにて、オークラウロ演奏者の小湊氏が、アレンジ・ピアノの保坂氏とともに演奏されました。（図2）

楽曲はクリスマスソングに続き、多くのスタンダードナンバーが披露され、ジャズやポップなど戦前とは異なる分野のピアノとのコラボレーションによる音楽でこの楽器の新たな魅力を感じつつ拝聴いたしました。（図3）

オークラウロには幻想的な響きがあり、またアンコールでは民謡小湊流家元の貫録を思わせる尺八の演奏も行われました。（図4）

複数の今まで耳にした事がない音色を堪能でき、フェロー一同大変聴き応えのある時間を過ごせ、酔いしれることで楽しく有意義な時を共有出来たことに感謝致します。（図5）



図3 会場風景、演奏者より
fig. 3 The hall scenery from the player



図4 尺八とオークラウロの説明をする演奏者
fig. 4 The player who gives explanation of a Shakuhachi to a Okraulo



図5 会場風景、会場より
fig. 5 The hall scenery from the hall

IV. 演者プロフィール

・小湊昭尚（尺八・オークラウロ）

1978年、民謡小湊流家元の長男として福島県須賀川市に生まれ、4歳より民謡の唄を始め、舞台にも立つ。

1990年より佐々木大盟氏に尺八の手ほどきを受け、1995年、竹盟社宗家故人間国宝山口五郎氏に師事。

2001年東京藝術大学を卒業。2004年avexからZANの尺八、Vo.としてメジャーデビュー。

2008年にZANとして全米デビュー。その他のユニット等と合わせて、個人、ユニットで国際交流基金等の派遣としてアメリカ、ヨーロッパなど世界数十ヶ国で公演。NHKの音楽番組、民謡番組、題名のない音楽会など放送関係にも出演。スーザン・ボイル、石井竜也、Gackt、エリック・マーティン、EXILEをはじめ、

多数のアーティストのCDの録音、共演、アニメやゲームのサウンドトラック、古典から現代音楽迄ジャンルを問わず活動中。民謡小湊流家元。2011年、イタリアで上演された、文化庁事業J-ART「創生神楽」の音楽監督を務める。

・保坂修平（作曲・アレンジ・ピアノ）

1978年生まれ。群馬県出身。東京藝術大学大学院卒業。クラシック・ピアノを峰岸沙織氏、ジャズ・ピアノを吉田賢一氏に師事。クラシック、ジャズ、ポピュラーの語法をバランスよく取り入れた幅広く柔軟な音楽性には定評がある。2008年、新国立劇場で上演された舞台「リングの木の下で～昭和21年のジャズ」（横山智佐、中河内雅貴主演）の音楽監督。つのだ☆ひろバンドのピアニスト、アレンジャーを務める。

文責：小倉喜一郎

Phantom Vertical flute Okraulo with Piano Concert

Shakuhachi · Okraulo Player

Akihisa KOMINATO

The 2012 I.C.D.Japan Section First Joint Meeting of Year-End Meeting with Winter Meeting was held on December 8 (Sat.) at the Inperial Hotel "Hikarino Ma".

In this Year-End Meeting attraction was "Phantom Vertical flute Okraulo with Piano Concert" by Shakuhachirist Kominato Akihisa with Pianist Hosaka Shuheii.

Key words : Okraulo, Phantom, Vertical flute, Shakuhachi